

短 報

宇和海周辺で記録されたアカメ

津村英志*・水野晃秀**・山本孝雄*・須田康彦*・山本貴仁***

Record of the Japanese snook *Lates japonicus* from the Uwa sea,
in the southwestern part of the Shikoku island, Japan
Eiji Tsumura, Kouki Mizuno, Takao Yamamoto, Yasuhiko Suda, Takahito Yamamoto

ABSTRACT From May 1997 to October 1999, the Japanese snook *Lates japonicus* was recorded around the Uwa sea in the southwestern Shikoku where the record of the species had not been obtained.

Two specimens which were identified with *Lates japonicus* by Katayama and Taki (1984) were collected from Uwa sea and were described for the first time from Ehime Prefecture.

はじめに

アカメ *Lates japonicus* は、静岡県から鹿児島県にかけての太平洋側に分布する、本邦固有のスズキ目Perciformes、アカメ科Centropomidae魚類である (Katayama and Taki, 1984; Iwatsuki *et al.*, 1993; 鍋島ほか, 1994; 木下・岩槻, 1996; 岩槻, 1998)。

近年、本種の個体数が減少しており (木下・岩槻, 1996), 1999年に環境庁によって「準絶滅危惧種」に指定された。これまでの愛媛県における本種の分布情報は、10年前より宇和海にそそぐ河川河口域から伝聞によるものはあったものの、標本に基づく報告によるものは皆無であった。

ところが1997年から1999年にかけて、愛媛県の沿岸域と河川域で採集され、アカメと同定される個体が相次いで虹の森公園おさかな館および宇和海ふれあいセンターへ寄贈された。そこで、これまでに得られたこれらのアカメの標本に基づき、愛媛県における本種の分布について報告する。

材料と方法

寄贈された標本の採集地点を図1に示す。採集された4個体のアカメのうち僧都川産の個体は現在飼育中であり、西海産のものは食用にされたため、記載は標本が現存する2個体について行った。

おさかな館収容時に測定した魚体重以外の計数および計測は、すべて死亡後に行った。計数・計測方法は中坊 (1993) に従った。ただし、体高は背鰭基底始部より垂直に下ろした長さとした。脊椎骨の観察は、軟X線写真によった。なお、記載に用いた標本は、大阪市立自然史博物館魚類資料 (OMNH-P:Osaka Museum of Natural History) として登録・保管されている。

記 載

アカメ *Lates japonicus* Katayama and Taki 1984

標 本

OMNH-P13829, 765mm SL (標準体長), 愛媛県南宇和郡西海町鼻面岬手前, MC (標準地域メッシュコード) 4932-23-79, 小型定置網, 小川秀一採集, 1999年5月6日水揚げ後, おさかな館へ収容, 1999年8月4日死亡 (図2)。

OMNH-P13858, 734mm SL, 愛媛県北宇和郡津島町岩松川河口, MC 4932-54-31, ルアー釣り, 大野宗俊採集, 1999年10月20日釣獲後, おさかな館へ収容, 1999年12月7日死亡 (図3)。

* 財団法人 松野町観光公社 虹の森公園 おさかな館
Foundation of Matsuno Town Sightseeing public corporation
Nijinomori-park Osakanakan

** 愛媛県立宇和島水産高等学校
Ehime Pref. Uwajima Fishery High School

*** 愛媛県総合科学博物館 振興課 企画普及係
Section of museum education Ehime Pref. Science Museum

項目	OMNH-P13829	OMNH-P13858
全長 (mm)	900.0	856.0
体重 (kg)	12.7	9.4
標準体長 (mm)	765.0	734.0
肛門前長 (mm)	521.0	528.0
躯幹長 (mm)	268.0	299.0
背鰭前長 (mm)	344.4	313.1
臀鰭前長 (mm)	552.0	541.0
腹鰭前長 (mm)	269.0	247.4
胸鰭前長 (mm)	251.0	222.1
体高 (mm)	226.1	221.0
体幅 (mm)	103.4	88.5
頭長 (mm)	274.0	241.2
頭高 (mm)	178.9	180.3
頭幅 (mm)	91.1	88.1
尾柄高 (mm)	105.6	99.0
尾柄長 (mm)	146.0	135.0
尾部長 (mm)	234.0	194.7
吻長 (mm)	54.4	58.0
眼径 (mm)	24.0	23.2
両眼間隔 (mm)	44.1	36.6
眼後長 (mm)	197.7	173.4
眼下幅 (mm)	21.4	217.0
上顎長 (mm)	107.2	90.2
下顎長 (mm)	109.8	93.8
胸鰭長 (mm)	107.5	84.2
腹鰭長 (mm)	146.4	105.6
背鰭基底長 (mm)	330.9	320.0
臀鰭基底長 (mm)	108.2	97.9
*Second dorsal spine	32.2	32.8
*Third dorsal spine	108.4	109.7
*Lsat dorsal spine	41.1	34.3
*Longest dorsal soft ray	81.8	67.6
*First anal spine	21.5	25.6
*Second anal spine	43.7	41.8
*Third anal spine	38.1	39.6
*longest anal soft ray	85.5	78.0
背鰭条数	7棘+1棘11軟条	7棘+1棘7軟条
胸鰭条数	16軟条	16軟条
腹鰭条数	1棘5軟条	1棘5軟条
尻鰭条数	3棘8軟条	3棘8軟条
尾鰭条数	14軟条	14軟条
側線鱗数	62	63
側線上横列鱗数	7	7
側線下横列鱗数	11	9
横列鱗数	22	21
第1鰓弓鰓耙数	2+1+5	2+1+6

表1 アカメの標本のデータ

Table 1 Morphometric character of the Japanese snook *Lates japonicus* from the Uwa sea.

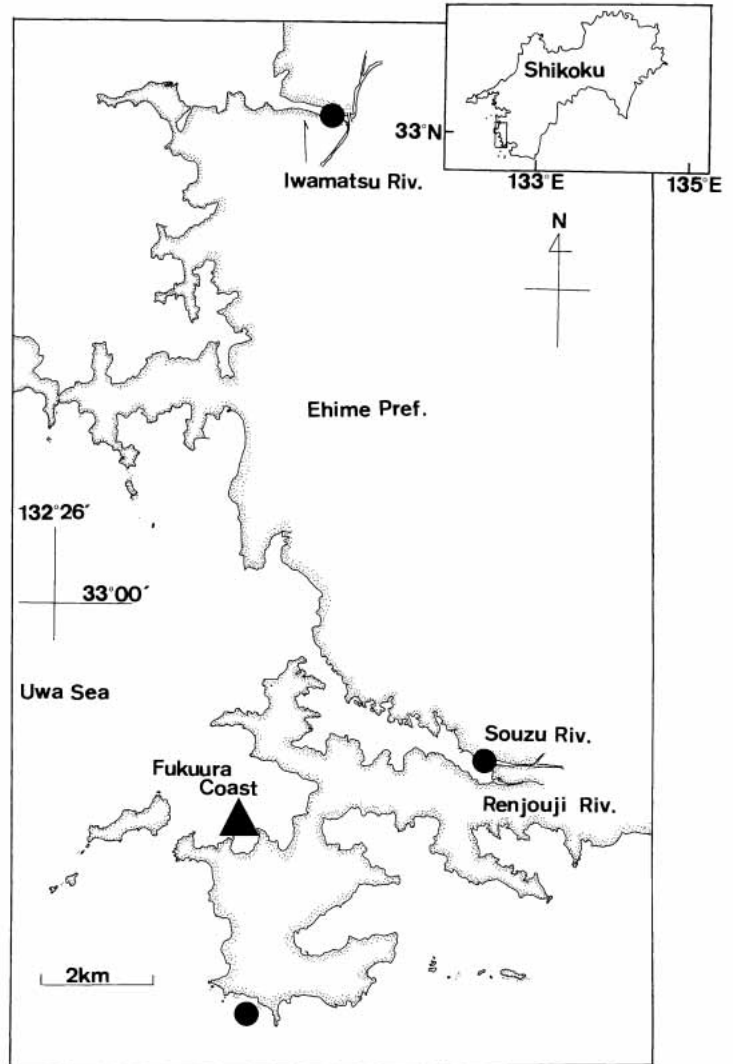


図1 採集地点

Fig.1 Map showing the study area, Uwa sea. Capture site of specimens(●); photographs and newspapers(▲).



図2 アカメ (愛媛県南宇和郡西海町鼻面岬手前で採集)
Fig.2 *Lates japonicus* (OMNH-P13829,900mm TL,Fukuura Coast).



図3 アカメ (愛媛県北宇和郡津島町岩松川河口で採集)
Fig.3 *Lates japonicus* (OMNH-P13858,856mm TL,Iwamatsu River).

記 載

計測値と体各部に対する比率は、表1に示す。またOMNH-P13829とOMNH-P13858との計数・計測値に相違が見られた場合は、後者を括弧内に示した。

背鰭7棘 - 1棘11軟条, 臀鰭3棘8軟条, 胸鰭16軟条, 腹鰭1棘5軟条, 鰓耙数2 + 1 + 5 (2 + 1 + 6), 脊椎骨数11 + 14 = 25, 側線鱗数63 (62), 側線上方鱗数7, 側線下方鱗数9 (11), 全長117.6% (116.6%) (標準体長に対する百分率, 以下同様), 頭長35.8 (32.9), 吻長7.1 (7.9), 眼径3.1 (3.2), 両眼間隔5.8 (5.0), 上顎長14.0 (12.3), 体高29.6 (30.1), 体幅13.5 (12.1), 尾柄長19.1 (18.4), 尾柄高13.8 (13.5), 背鰭第2棘長14.2 (15.0), 背鰭第3棘長4.2 (4.5), 背鰭最長軟条長10.7 (9.2), 臀鰭第1棘長2.8 (3.5), 臀鰭第2棘長5.7, 臀鰭第3棘長5.0

(5.4), 臀鰭最長軟条長11.2 (10.6), 胸鰭長14.1 (11.5), 腹鰭長19.1 (14.3), 腹鰭長と背鰭第3棘長の相対長135.1 (103.9), 臀鰭第2棘長と臀鰭第3棘長の相対長114.7 (105.6), 背鰭第2棘長と背鰭第3棘長の相対長29.7 (29.9)。

考 察

今回得られた標本は、下顎が上顎より突出していること、体高が高いこと、頭部は眼上方から後方に向かってせり上がっていること、体幅は分厚いこと、前・後の鼻孔が接近していること、前鰓蓋骨下縁に4棘があることにより、アカメ *Lates japonicus* に同定された。ただ、側線下方鱗数は11および9で原記載で示された12には僅か

に足らなかったが、釣獲された時から魚体全体がかなり痛んでいたため一部脱鱗した可能性がある。

今までにアカメは、静岡県（浜名湖）、三重県（尾鷲）、和歌山県（富田川、有田川河口、湯浅町沿岸）、大阪府（淀川河口）、徳島県（海南町海老ヶ池、牟岐沿岸、浅川漁港、日和佐町沿岸、由岐町阿部漁港）、高知県（奈半利川、仁淀川、浦戸湾、四万十川）、愛媛県、大分県沿岸、宮崎県、鹿児島県（志布志湾、屋久島、種子島）から記録されているが（Iwatsuki *et al.*, 1993; 鍋島ほか, 1994; 木下・岩槻, 1996; 岩槻, 1998）、愛媛県からは標本に基づく正式な記録はなかった。

1997年5月22日に体長約55cm、魚体重約3kgのアカメが南宇和郡御荘町の僧都川河口で採集され、1997年6月19日には、全長90cm、魚体重10.5kgの個体が南宇和郡西海町外泊沖で採集された（愛媛新聞社, 1997）という新聞報道があったが、前者は現在おさかな館で飼育中であり、後者にいたっては著者らは未確認である。したがって、本報告が標本に基づく愛媛県からの本種の分布の初めての記録となる。

これまで本種は高知県、宮崎県を主生息域とし、静岡県から鹿児島県までの太平洋側を点在するように分布していたが、今回、愛媛県から得られた標本は、不連続分布の空白を埋めることとなる。

謝 辞

本稿を終えるにあたり、採集したアカメおよび採集状況についてご提供頂いた愛媛県南宇和郡西海町の小川秀一氏、愛媛県宇和島市の大野宗俊氏、原稿の校閲並びに標本の登録・管理から軟X線写真撮影に至るまで多大なるご助力賜りました大阪市立自然史博物館の波戸岡清峰氏に対し厚くお礼申し上げます。

文 献

- 岩槻幸雄（1998）：分布と資源における現状．1998年度日本魚類学会シンポジウム講演要旨集 アカメの生物学．p.2．
- Iwatsuki, Y., Tashiro, K. and Hamasaki, T. (1993) : Distribution and fluctuations in occurrence of the Japanese centropomid fish, *Lates japonicus*. *Japan Journal Ichthyology*, 40 (3). pp.327-332.
- 愛媛新聞（1997）：珍魚・アカメに会いに来て．6月22日付記事．
- 愛媛新聞（1999）：「オレがボス」新入りアカメ．5月10日付記事．
- Katayama, M. and Taki, Y. (1984) : *Lates japonicus*, a new centropomid fish from Japan. *Japan Journal Ichthyology*, 30 (4). pp.361-367.
- 木下 泉・岩槻幸雄（1996）：アカメ．日本の希少な野

生生物に関する基礎資料（ ）．水産庁編．pp.103-106.pl. pp.158-159.

中坊徹次（1993）：魚類概説．日本産魚類検索 - 全種の同定 - ．東海大学出版会，東京．pp.vii-xxxii.

波戸岡清峰（1993）：アカメ科．中坊徹次編，日本産魚類検索 全種の同定 ．東海大学出版会，東京．p.591.

平田智法・山川 武・岩田明久・真鍋三郎・平松 亘・大西信弘（1996）：高知県柏島の魚類相 行動と生態に関する記述を中心として ．高知大学海洋生物センター研究報告，16．pp.1-177．

鍋島靖信武・阿部恒之武・日下部敬之武・山本圭吾武・波戸岡清峰（1994）：大阪湾（淀川河口）でアカメがとれた．*Nature Study*, 40 (3). pp.2-4.